

自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年度の取組について、次の通り報告いたします。

1. 教育理念 『幼児教育こそ人格形成の礎である』

教育目標 『生きる力』を育む

1. 社会性を育てる
2. 思いやりの心を育てる
3. 主体性を育てる
4. 基本的生活習慣の育成

〈めあて〉 「一人ひとりを大切にしたい明るく楽しい幼稚園」

〈重点目標〉 全ての子どもたちが、心身共に健やかに！

- 明るく感性豊かな子ども
 - ・思いやりをもって（個性を認め合う心）
 - ・心豊かに（感動する心）
 - ・自分で考える
 - ・自分なりに表現する
- 元気で健康な子ども〔健康・安全の重視〕
 - ・生命の尊重
 - ・心身の健康

2. めざす教職員の姿

- ◎ 園の教育方針を正しく理解し、目標達成と秩序の維持に努める。
 - 自己を厳しくみつめ、前向きな姿勢で職務の遂行にあたる。
 - 常に学び、互いに切磋琢磨して資質を高める。
 - 円滑な運営とより良い教育活動のために、建設的に意見を交わしたり、実現のための努力を惜しまない。
- ◎ 教職員のチームワークと信頼関係を大切に作る。
 - 全員が、互いに愛情・信頼・責任をもって接すること。
 - 心身の健康管理に努めること。
 - 自主・責任・努力の意思のもと、協力・連帯の絆を力に職務に精励する。
- ◎ 子ども・保護者・外部の人に対して、真心をもって接する。
 - 温かい言葉、笑顔、思いやりのある言動と、常に相手の立場に立って考え、寄り添う。

3. 重点的に取り組む目標や計画

子どもの気づきや疑問、発見等に共感し、他児との共有に繋がるアプローチ(言葉掛けや環境づくり)を教員同士が研究・実践する機会をもち、興味・関心の広がる保育展開を実現する。また、自然(生き物・植物)にふれる機会を増やし、園内の環境づくりにも工夫を凝らす。

子どもの言葉や表情等の汲み取りを丁寧に行い、教職員間で情報共有することで、園全体が安心できる場であることをしっかりと保証していく。

4. 評価項目の取組状況及び評価

評価項目	取組状況	評価
◎保育の計画性 教育理念 環境構成 評価・反省	○教育目標・保育の重点目標について、教職員間の共通理解を深める機会を設け、意思統一の努力をしている。 ○日々の保育の振り返りとミーティングを重視し、積極的な意見交換を行っている。 ○目標やめあてに基づき、人的・物的環境づくりの工夫。	B
◎保育のあり方 安全・健康 幼児理解 指導	○安全計画・保健計画・危機管理マニュアルに基づいて、安全で健康な園生活を送ることに日々配慮している。 ○一斉メール配信システムを使用し、緊急時の連絡が漏れなく、正確に伝わるようにしている。 ○登園時や保育中、また、園外保育の際の園児の確認を徹底する。 ○子ども一人ひとりを大切に、特性や違いを認め、人格の尊重や子どもの権利に配慮した。 ○療育施設と併用している園児の保護者、また施設との連携に努めた。	B
◎職員の資質・能力 姿勢・能力 義務・組織	○常に組織の一員である自覚をもった言動を心掛けるよう一人ひとりが努力している。 ○経験年数に見合った職務の遂行に努めると共に、個々の特性を生かす職務の分担。	B
◎保護者への対応 対話 交流	○個人面談の実施、また、保護者アンケートを実施し、必要な事項については園の方針を示したり、改善したりするよう努めている。 ○クラスだよりやまほろば通信を写真入りにすることで、園児の活動や様子が伝わるよう工夫した。 ○教職員全員が、真摯な対応を心掛けている。	B
◎社会との関わり 幼小連携 子育て支援	○地域の小学校・幼稚園・保育園との連絡会に定期的に参加して情報交換を行っている。進学先への情報提供。 ○年間を通しての未就園児教室の実施。 ○2歳児の一時預かりの実施。	B
◎研修と研究 意欲・態度 専門性	○研修会に積極的に参加し、学んだ内容を共有する機会を設け、また、教員間での意見交換を通しての学び合いの場を積極的に設けるようにしている。 ○日々の保育の振り返りや率直な意見交換が明日の保育を創り出す研修・研究となる意識をもっている。	B

評価（A…十分に成果があった。B…成果があった。C…少し成果があった。D…成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題

- (1) 子どもが主体的に生活・活動できるよう、保育や行事の具体的な見直しを図り、新たな取り組みにも教職員が一丸となって改善・挑戦する。
- (2) 園児の実態と中・長期的なビジョンに基づいた保育実践のバランスをとることを心掛け、保育や行事の取組や形態を適切に見直していく。

- (3) 園児の安心感と保護者の信頼に直結する日々の「保育」「対応」をより丁寧に行うことを心掛け、保護者と子どもの成長を喜び合い、また、悩み等にも寄り添える存在としての園・教職員となっていけるよう、資質の向上に努める。
- (4) 安全管理・危機管理を徹底し、感染症の発生、また、地震・自然災害等のような事態が生じても対応できるよう、状況を想定しての訓練を重ねておく。
- (5) 乳幼児期の発達についての学びを深め、未就園児教室や一時預かり、また、満3歳児クラスの運営に役立つ知識や技術を身につける。
- (6) 幼保小、また、専門機関との連携をさらに深め、園児一人ひとりの将来を見据えた保育を実施していく。

6. 学校評価委員会の評価

- ・夏場の気温上昇に伴い、熱中症対策としてエアコンを設置したことは、園児にとって適切な環境が保障されることや保護者の安心に繋がった。
- ・全ての通園バスに安全装置を取り付けたことは、園児の命を守る対策として適切であった。また、通園バス運行マニュアルを作成し、教職員が連携しての登降園時の確認をしている点は評価できる。
- ・教職員が教育理念や自園の良さを理解し、また、園児一人ひとりの個性や特性を理解して心を寄せている姿勢は、ぜひ受け継いでいってほしいと思う。
- ・保育教育施設での虐待や不適切保育の事案が取り上げられることが多い一年であったが、園全体で保育に取り組む体制が構築されていることから、今後も園児と保護者の人権、そして心身の安全と健康ががしっかり守られる教育活動を継続してもらいたい。